

掲載しきれないイベントの写真などは、糸満市の「フェイスブック」「インスタグラム」「ライン」に掲載しています。

Instagram



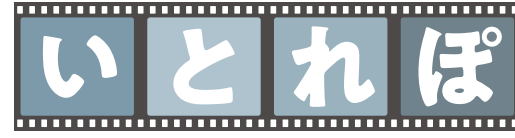
フェイスブック



ライン



旬の話題をお届け!
とれたて



大きく育てね♪ シラヒゲウニ放流実習



6月24日(木)沖縄県立沖縄水産高等学校総合学科海洋生物系列の生徒と糸満市立高嶺小学校の児童がシラヒゲウニ4000個体以上を名城ビーチ沖の海に放流しました。この実習は、昨年10月に高嶺小学校5年生と共同で人工授精を行い、4000個体を超える稚ウニの生産に成功。今年度6年生になった児童たちと放流することになりこの日の実習となりました。沖縄水産高等学校総合学科海洋生物系列では、シラヒゲウニの種苗生産・放流実習を、本部町の沖縄県栽培漁業センター指導のもと20年以上取り組んでおり、シラヒゲ

ウニの種苗生産を行っているのは全国でも沖縄水産高等学校のみということです。高嶺小学校の児童からは「ウニの成長が早くてびっくりしました」や「とげが思ったより痛くなかった」と実習を楽しんだ感想を聞くことができました。



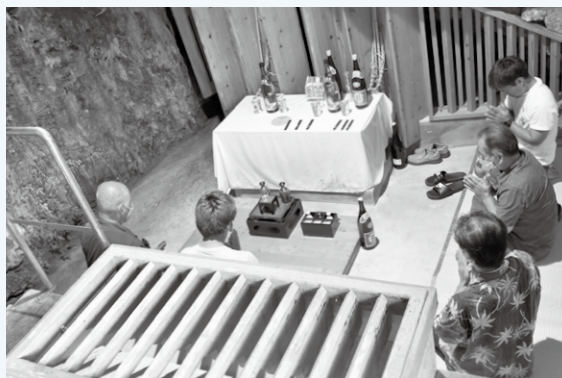
ハーレー到来の鉦の音 ハーレー鉦が 鳴り響く

6月7日の早朝、山嶺毛で旧暦5月4日(ユッカヌヒー)糸満ハーレー到来を告げる鉦打ちが行われました。鉦打ちは、糸満ハーレー 1週間前の旧暦4月27日に行われており、ハーレー鉦が鳴ると梅雨が明けるといわれています。新島の衣装を身にまとった東恩納博委員長(糸満ハーレー行事委員会)が、東西南北に向けて力強く鉦を打ち鳴らしました。東恩納委員長は「新型コロナウイルスの影響により2年連続でハーレーは中止となってしまいましたが、今は我慢の時期なので、一日も早く新型コロナウイルスが収束し、日常生活が戻るよう強く願いました」と話しました。



旧暦5月4日(ユッカヌヒー) ハーレーの御願が執り行われました

ハーレー行事が新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年連続で中止となりましたが、6月13日のユッカヌヒーには、山嶺毛や白銀堂でハーレーの御願やハーレー歌の奉納、御願バーレーのスタートを知らせる旗振りが執り行われました。旗振りを行った玉城亨さんは「御願バーレーもない状況での旗振りはとても寂しい気持ちはありますが、先人達が繋いできた伝統を少しでも形にしたいと思い、旗を振らせていただきました」と話しました。



オリンピック内定 當銘孝仁選手が 市役所を訪れました

東京2020オリンピックカヌースプリント男子カナディアンシングル1000メートル国内最終選考大会で優勝およびオリンピックに出場内定した、糸満市出身の當銘孝仁選手が結果報告のため、6月3日糸満市役所を訪れました。當銘選手は「本格的にシングルをやるのは数年ぶりなので、どのようになるのか自分でもわからない部分がありますが、下馬評を覆してメダル争いに絡んでいきたい」と抱負を語りました。當銘市長は「オリ



ンピック内定おめでとうございます。糸満市出身のオリンピック選手ということでとても嬉しいです。子どもたちも同じ糸満という地からオリンピック選手がでたということで、刺激になると思います。糸満市は今年の12月に市制施行50周年を迎えるので、ぜひオリンピックでメダルを獲って花を添えてほしい」と激励しました。



◀市役所1階で行われたオリンピック内定激励会。花束の贈呈などが行われました。

地域活性化起業人 JTBと派遣協定を締結



糸満市は、JTB沖縄と「地域活性化起業人」の派遣協定を締結し、6月1日から同社の職員1人を受け入れています。これは、総務省の「地域活性化起業人制度」を活用した取り組みで、市で初の締結となります。JTB沖縄から派遣される職員は、建設中の糸満市観光文化交流拠点施設(愛称:くる糸満)の県内外へのプロモーション活動や同施設を中心とした

観光ルートの作成などの業務を担います。JTB沖縄の杉本社長は、「コロナ禍で苦しい状況ですが、沖縄観光の魅力や地理的優位性は失われていません。那覇空港に近い糸満市は県の観光をリードできると思います。点在している観光資源を面にし、魅力を発信していきたいと考えています。グループ全体で協力していきます。」と話しました。

コロナ禍で困窮する女性を支援するために市の備蓄用品から生理用ナプキンを、市内小中学校16校に寄贈することになり、その贈呈式が行われました。贈呈を受けた糸満市小・中学校校長会会長の渡辺英二校長(真壁小)は「いっぺーにふえーでーびる。コロナ禍で大変な家庭がある中、備蓄用品を活用することは大変良いことだと思います。ゆいまーの精

神でこの流れが県内に広がればいいと感じます」と話し、糸満市小・中学校養護教諭代表として與那城和教諭(西崎小)は「コンビニなどでは1つ400円程度する生理用品なので、困窮世帯では浮いたお金を食費にあてることができたりもします。このような形で寄贈を受けたので、市内の養護教諭と相談して有効に活用させていただきます」と話しました。

コロナ禍で困窮する女性を支援 防災備蓄品の贈呈式

